

理事長就任のご挨拶

(財)日本塗料検査協会 理事長
ロックペイント㈱ 代表取締役社長

辻 信一郎

この度、はからずも財団法人 日本塗料検査協会の理事長の大役を仰せつかりました。微力ではありますが、お引き受けしました以上、皆様のご指導のもと、世界的にも権威ある検査機関を目指し、精一杯頑張ってお参りたいと思っております。

前任の増子理事長は、東大名誉教授で千葉工業大学で教鞭をとられているご高名な学者であるのは申すまでもありませんが、団体の運営についても卓越した識見とすぐれたリーダーシップをお持ちで、堀邊副理事長や橋本専務理事の協力のもと、本会の育成発展に大変ご尽力を賜って参りました。お蔭様で昨今の世間の経済状況にもかかわらず、財政的にも健全で、知識も経験も豊富な職員が効率よく確実に試験検査受託の業務を処理し、標準化事業にも積極的に取り組んでいます。

世界的レベルの中立検査機関としての信頼を得るには、独立性と公明性が命綱であり、それを長い長い間積み重ね持ち続けなければなりません。失うとすればそれは一瞬、一つの失敗、汚点からでありましょう。

7月から改正建築基準法が施行されました。人がもっとも長く滞在するのは家庭や事務所であり、室内環境が重要視されるようになって参りました。ホルムアルデヒド放散量測定の装置や検査方法の修得、確立の準備がよいタイミングでできましたので、多くの方々に利用されています。現在のところ、塗料や接着剤ではホルムアルデヒドが対象であります。将来は芳香族系その他の物質が追加されてくるものと思われます。それらの分析方法につい

ても検討しておく必要があります。又、2月に施行された土壌汚染対策法への対応や、先日の宮城県沖地震でもコンクリート強度の問題が出てきたことを考えると、コンクリート強度と塗料の関係についても対応していく必要があるかもしれません。

本協会では標準化関連の取り組みも種々活発に行っているところでありますが、平成12年度から研究してきたマルチカラーの測色方法を国際標準につなげるため、ISO規格原案の検討を開始しております。今後も時期を失することなく新しいテーマを的確に捉えて取り組んでいきたいものであります。

検査料金についても今年度から一部値下げを致しました。比較は必ずしも正確ではないかもしれませんが、他の機関より試験項目によっては30%~40%低いものもあると思っています。今後も設備を充実し、職員各位の創意工夫を得て効率的に検査業務をすすめて参りたいものです。

新しい技術の開発には、確固たる検査データが必要であり、基準のしっかりした正確な検査機関の存在が不可欠と信じます。

本協会の理事、評議員の方々は各界を代表する権威者がたくさん揃っておられます。皆様のご指導ご鞭撻をいただき、本協会を一層発展させていきたいと考えております。



副理事長就任ご挨拶

(財)日本塗料検査協会 副理事長
京都大学大学院工学研究科 教授

宮川 豊 章

今回日本塗料検査協会の副理事長という大役を引き受けすることになりました。辻理事長を補佐し、日本塗料検査協会の発展に微力ながら取り組みたいと思っております。御関係各位のご協力を切にお願いする次第です。

私は現在社会基盤工学専攻に所属していますが、もともとは土木工学の出身です。学部の講義で材料学という科目があり、毎年初回の講義で学生に、建設用材料としてどのようなものがあるか、と聞いています。今の学生がマニュアル世代であるためもあるのかもしれませんが、なかなか具体的な名前をあげることができません。塗料は先ず回答にあがっては来ないのが実情です。

材料というものは、コンクリート、鉄鋼、エポキシ、ポリエステル、アクリルなど材料の組成そのものによって呼ばれる場合と、用途によって区別されて呼ばれる場合があります。塗料というものは後者に属する、と考えていいでしょう。後者は、用途が明確であるわけですから、近年盛んな性能規定になじみやすい筈です。

私自身塗料とは、土木コンクリート構造物の塗料という観点を中心として付き合いしてきました。そのため、土木コンクリート構造物において塗料に期待される役割＝機能と、それを工学的に分解した性能についてはある程度検討してきたつもりです。

日本塗料検査協会は歴史と伝統のある塗料の試験と検査に関する日本唯一の第三者機関と聞いています。しかしその割にはわれわれ建設関係の人間が知るところは少なかったように思います。これは建設

技術者にとって大きな損失です。土木コンクリート構造物にとって、塗料はまだ周知の材料ではありません。あえて言えば、塗料によって得られる何らかのメリットがなければ不要なものなので

す。塗料の、どのような役割によって、コンクリート構造物が良くなるのか、その結果どのようなメリットを人々が得ることができるのかが重要です。このメリットは、性能規定の動きの中では、検査による確認によってはじめて明確になっていくでしょう。

現在土木構造物は、コンクリート構造鋼構造を問わず、維持管理の時代に入りつつあります。その場合、合理的な維持管理計画の策定、長期的・戦略的な投資計画の策定、ニーズに基づくサービス水準の設定、手続き・プロセスの透明化と説明責任、モニタリングや事後評価の反映などが要求されることとなります。維持管理、特に補修にあたって塗料およびその検査に期待される役割は大きいのです。日本塗料検査協会の出番は増えるはずですし、増えなければならないと思っています。

当協会への一層のご支援をお願いして結びといたします。

